

小野真理 -Mari Ono- (ヴァイオリン)



神戸市出身。大阪音楽大学附属音楽高等学校、大阪音楽大学音楽部卒業。片岡若葉、島暢子、長谷川孝一、山名公子、海野義雄 各氏に師事。

ドイツ国立Hannover音楽演劇大学でW. Heutling教授の元で学ぶ為に渡独。W.ホイトリング 教授にヴァイオリンと室内楽を、O. グラーフ、M.シェーファー、K.ヘスラー各氏に室内楽を師事する。在学中にTestore Quartettを結成またHannover国立オペラハウス・オーケストラに所属する。

卒業試験を最高点で終了し、引き続きソリストクラスで学ぶ。

1982年より2019年4月迄Braunschweig国立劇場に所属し、Staatsorchester Braunschweigの第一ヴァイオリン奏者として在籍。

ドイツ室内楽者の称号を授与される。

ブラウンシュヴァイクでは、

Mariono Streichtrio、Ad Libitum Quartettを結成し数多くの室内楽活動も行う他、W.ホイトリング教授の助手、又 パイネ市立音楽学校のヴァイオリン講師も勤めて後進の育成にも力を注ぐ。

2019年8月に、ドイツでの43年間の音楽活動に区切りを付けて帰国。

Concerti di Mago Testoreを開催する他演奏活動が続けている。神戸在住。

太田太郎 -Taro Ohta- (ピアノ)

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。ドイツ国立リスト音楽大学同大学院ピアノ専攻卒業。留学期間中、交換留学生としてノルウェー国立スタバングル音楽大学へ推薦入学、北欧の各地で演奏会を行う。ドイツ留学中、オペラプロジェクトに抜擢され全11公演の室内オーケストラのピアニストを務める。タンスマン国際音楽コンクール（ポーランド）ディプロマ賞、ロンドン国際コンクール第5位、ザトラ国際コンクール（イタリア）第1位。ピアノを、伊作真理、三輪房子、今野信子、G.ザイデル、G.オットー、E.エリクソン、K.シルデの各氏に師事。加藤一郎、柳川守、小林道夫、故森安芳樹、田村美和、A.アルニム、G.オピッツ、M.バスティンスの各氏からも折りをみてアドバイスをもらう。室内楽をUlrich Beetz、歌曲伴奏法をLudwig B tzel。

イタリアではソロデビューリサイタルが好評を博す。帰国後はソロ・室内楽と演奏活動を行う一方、相模原市橋本に音楽スタジオ”エームジーク・スタジオ”を開設し音楽指導とともに自身の演奏研究を精力的に行っている。2022年よりクラシックコンサートのプレゼントを届ける”千 سانت プロジェクト”始動。2023年より小・中学校での音楽鑑賞の出張授業「ちょこっとコンサート」”ベヒシュタインばかりを弾く”名器と語らうサロンコンサートシリーズ”始動。2024年より”グロトリアンばかりを弾く”名器と語らうサロンコンサートシリーズ、2025年より”ブリュートナーばかりを弾く”名器と語らうサロンコンサートシリーズを始動。

